

1月21日 4年生 山梨科学アカデミー教室

「未来の科学者訪問セミナー」の事業は、科学に関する知識の啓発を行うために本県ゆかりの研究者等が県内の学校を訪問し科学や技術についてわかりやすく紹介する事業です。

4年生が「物の温まり方」について、山梨大学工学部の教授をお招きし、クラスごとに授業をしていただきました。日頃何気なく接している科学について、体験的な実験を行いました。



デジタル温度計を使って、水が沸騰するときの温度や氷の温度などを測定しました。

空気が熱を伝えにくいことなどを、気泡緩衝材（プチプチ）を使って体験したり、熱線カメラで可視化したりして確認することもできました。



気泡緩衝材を手にはめて保冷剤に触っても冷たく感じないね。でもプチプチをつぶして手にはめて保冷材に触ると「あー冷たい」。空気があるとないとは、こんなに違うんだね。



最後に「ふとんはなぜあたたかいのか？」という疑問を考えました。「布団に入っている綿や羽毛が空気を包み、寝ている間に人の体温によって布団の中の空気があたためられます。だから、ふとんが自分をあたためるのではなく、自分がふとんをあたためているんだよ。」と話がありました。プチプチをつぶす前とつぶした後で、保冷剤に触った感じの変化を生活の中の一場面とつなげて考え、深めることができました。